

第 82 回 教育研究評議会 議事要録

日 時 平成 29 年 9 月 20 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 15
場 所 本部管理棟 5 階会議室
出席者 脇口学長、櫻井理事 (総務・国際・地域担当)、藤田理事 (教育・附属学校園担当)、執印理事 (研究・医療担当)、竹田理事 (財務・労務担当)、藤本副理事、辻田副学長、岩崎副学長、奥田副学長、小島副学長、飯國副学長、藤原副学長、深見学長特別補佐、吉尾人文社会科学部長、鈴木理工学部長、本家医学部長、尾形農林海洋科学部長、上田地域協働学部長、栗原大学院看護学専攻長、田中大学院黒潮圏総合科学専攻長、遠藤人文社会科学系長、後藤自然科学系長、藤枝医療学系長、大島総合科学系長、近藤共通教育主管、岩崎センター連絡調整会議議長、徳山海洋コア総合研究センター長、横山医学部附属病院長、岩佐評議員、岡谷評議員、米村評議員、由利評議員、關評議員、大石評議員
欠席者 石川副理事、菅沼副学長、受田副学長、中川学長特別補佐、藤田教育学部長
陪 席 関監事、大崎監事

〔配付資料〕

- 資料 1 希望創発センター (仮称) 設置計画書 (案)
- 資料 2-1 平成 28 年度国際交流活動について
- 2-2 国際交流協定校一覧 (平成 29 年 5 月 1 日)
- 2-3 所属先補てん等に関する覚書
- 資料 3 平成 30 年度概算要求について
- 資料 4 国立大学法人高知大学学長候補者の推薦について (依頼)

議事に先立ち、学長から教職大学院の設置について、文部科学省から「設置を可」とする通知があった旨の報告が行われ、小島副学長 (教職大学院設置準備室長) から支援・協力について謝辞が述べられた。

引き続き、第 81 回教育研究評議会議事要録 (案) の確認が行われ、異議なく承認された。

〔議題〕

1. 希望創発センター (仮称) 設置計画について
櫻井理事から、資料 1 に基づき、希望創発センター (仮称) 設置計画について説明が行われ、審議の結果、了承された。
なお、今後調整等の必要が生じた場合は、学長に一任することで了承された。
2. 平成 28 年度国際交流活動について
櫻井理事から、資料 2-1 ~ 2-3 に基づき、平成 28 年度国際交流活動について報告が行われた。
3. 平成 30 年度概算要求について
竹田理事から、資料 3 に基づき、平成 30 年度文部科学省概算要求の概要及び本学の概算要求事項の状況について報告が行われた。
4. 国立大学法人高知大学学長候補者の推薦について
学長から、次期学長候補者の推薦について、前回の第 81 回教育研究評議会において審議、決定された推薦方法について確認が行われ、関監事を立会人として投票を行う旨の説明が行われた。

確認された推薦方法は、

- ①評議員による単記無記名投票により、得票の多い上位3位までの者を学長候補者として推薦する。
- ②投票・集計の結果は、得票数が同数の場合は同順位として上位3位までの者を学長候補者として推薦する。
- ③ただし、3位の者の得票数が少数等の場合は、その取扱いについて教育研究評議会で審議を行うものとする。

投票の結果、学長から3位までの者の得票数が報告され、上位3位までの者を学長候補者として推薦することが了承された後、五十音順に下記の3名の氏名が報告された。

櫻井 克年氏（理事（総務・国際・地域担当））

執印 太郎氏（理事（研究・医療担当））

吉尾 寛氏（人文社会科学部長）

教育研究評議会議長である学長が、別室にて推薦のあった3名に対して立候補の意思確認を行った結果、3名とも推薦を応諾する旨の報告が行われた。

これにより、櫻井氏、執印氏、吉尾氏の3名を教育研究評議会推薦による学長候補者とする事となった。

5. その他

- ・櫻井理事から、修学支援基金の受入状況について報告があった後、学長から修学支援基金について教職員への協力依頼があった。

- ・学長から、薬品管理について、全学で一元管理する必要性から薬品管理システムへの登録依頼及び次回の安全・安心機構会議において全学での一元管理の明文化を行う旨の説明があった。

評議員より機能等が不十分な薬品管理システムに登録していくのかとの意見があり、学長よりシステムは順次改善していく旨の説明があった。

評議員より、薬品管理システム導入時の説明会の際、システムの改善点を伝えていたが反映されておらず、また、システムへの登録は強制ではなく任意と確認しているとの意見があり、学長から、強制でないのは一般薬についてのことであった点及びシステムの改善については対応されているとの報告を受けている旨の説明があった。

評議員より、別に薬品を管理しているシステムを使用している場合は、必ずしも薬品管理システムを併用しなくていいと確認しているとの意見があり、学長から、今までの薬品管理に問題があった以上、今後の話として薬品管理システムに一般薬・管理薬を問わず全薬品を必ず登録していただきたい旨の説明があった。

評議員より、改善を要するシステムに登録するのではなく、完全なシステムとしてもらいたいとの意見があり、竹田理事から、経緯として薬品管理に問題があって、一元管理する必要性から、今回の登録の話となっており、教員だけに業務負担を強いるわけではなく、事務も協力していくので、登録に協力いただきたいとの説明があった。

- ・学長から、世界大学ランキングにおいて、論文サイテーションが非常に高い位置におり、研究・国際分野が本学の強みであるので今後も継続してもらいたいとの報告があった。

- ・評議員から、「安全保障技術研究推進制度」に対する大学の対応についての進捗状況の確認及び検討している委員会での議事録の作成依頼について意見があり、執印理事より、研究戦略委員会の下、ワーキングを立ち上げ対応案を検討している段階である旨の説明があった。

- ・学長から、平成29年度教育研究評議会の1月開催分に係る日程について説明が行われた。

以上